冬季オリンピック選手を生み出す常呂町のカーリング環境

北海道常呂高等学校
中　田　光　哉

1　旧常呂町（北見市常呂自治区）・常呂高校の概要

⑴　位　　置

旧常呂町は、北海道オホーツク管内の常呂郡に存在した町で、2006 年（平成 18 年）３月５日に北見市、留辺蘂町、端野町と新設合併し、北見市の一部（常呂自治区）となりました。面積は 278.3 平方キロメートル、町名の由来は、アイヌ語の「トー・コロ」（沼のある所）からと言われています。

オホーツク管内中部に位置し、北部はオホーツク海に接し、西部は網走国定公園の一部でもあるサロマ湖に隣接しています。また、北海道遺産のワッカ原生花園や世界文化遺産登録を目指す「史跡常呂遺跡」など豊かな自然に恵まれています。さらに、夏と冬の寒暖の差が 50 度程度あり、冬季は流氷接岸も特徴です。

⑵　基幹産業や人口

産業ではつくり育てる漁業や畑作三品（小麦・馬鈴薯・甜菜）を主とする大規模畑作農業など、安定した産業を維持しています。特に漁業では年間約４万トンのホタテ貝などがとれ、農業では 4,700 ヘクタールにも及ぶ広大な農地を有し、畑作三品以外にも玉ねぎ、小豆、かぼちゃなどが有名です。総人口 4,156 人（平成 26 年７月 31 日現在）

⑶　学校規模

昭和 23 年北海道網走高等学校常呂分校として開校し、昭和 27 年に現校名常呂高等学校に改称。平成 25 年度末現在 3,285 名の卒業生。全校生徒は、平成 26 年度１学年 22 名、２学年 20 名、３学年 17 名、普通科３学級合計 59 名です。現在活動している部活動等は、陸上競技部（３年連続インターハイ出場）、野球部、バスケットボール部の３つの部活動と茶道同好会、ボランティア局が活動しています。

本校の特色としては、カーリング授業は元より、地域と密着した学習活動として、学習成果の地域へ発表（国際交流報告会や地域への提言）、ワッカ原生花園での環境保護活動、サロマ湖 100㎞ ウルトラマラソンボランティア活動など本校ならではの活動を行っております。

2　カーリング競技と常呂町の関わり

⑴　カーリングの町となった経緯

発祥の地はスコットランド、日本にはじめて持ち込まれたのが長野県とされています。北海道では 1950 年代に苫小牧市のウトナイ湖のホテルで見つかったストーンが最も古いものだそうです。

最近は、常呂町＝ホタテ、というのもありますが、常呂町＝カーリングという構図も登場するようになってきています。町をあげてカーリングを推進していて、日本一カーリングが盛んとされています。

旧常呂町では、北海道とカナダ・アルバータ州の姉妹提携を縁に十勝管内・池田町で行われた「カーリング講習会」参加をきっかけにカーリングが導入されました。これが常呂とカーリングの初めての出会いになります。昭和 55 年１月にスケートリンクの片隅で、ビールのミニ樽を利用した手作りのストーンからその歴史が始まり、同時に協会を設立して活動と普及に乗り出しました。昭和 56 年２月に、元世界チャンピオンでカナダ・アルバータ州在住のウォリー・ウースリアク氏による指導者講習会を開催。スケートリンクの一角に２面のリンクを造成して本格的な普及を始めるとともに、第１回ＮＨＫ杯カーリング選手権大会（今なお国内では最も歴史ある大会として位置付けられている）を開催し、カーリングの普及と技術の向上が図られました。この大会を契機に常呂のカーリング人口は急激に増えていきました。

昭和61年、北海道知事がＮＨＫ杯を観戦し、予想以上のカーリングの普及に驚き、３年後に開催される「はまなす国体」でカーリングをデモンストレーション競技に採用すると発表。昭和62年に常呂町で開催されることが決まり、その競技会場として国内初の「屋内カーリング専用リンク」の建設に着手し、昭和63年１月７日、「常呂町カーリングホール」がオープン。国際規格に合致した５つのレーンを備え、氷温の調節できるパイピング方式が採用されました。

これにより、気候に左右されず、安定したリンクコンディションの中で、十分な練習環境を持った常呂のチームは、圧倒的な強さで国内の大会を制していきました。カーリングホール完成後は、この地域の競技力が著しく向上し、常呂町の選手が北海道選手権や日本選手権の上位を占めるとともに、多くのオリンピック選手を輩出しています。特に長野オリンピックには、常呂からはたくさんの応援団が駆けつけました。町内にはたくさんの報道が押し寄せ、わずか5,000人の町から５人ものオリンピック選手を出したことも話題となりました。

更に2006年２月18日には、ソルトレイク五輪に出場した常呂高校の女子４人のカーリングチーム「シムソンズ」を題材にした映画「シムソンズ」（佐藤祐市監督・加藤ローサ、高橋真唯、星井七瀬、藤井美菜、大泉洋ほか）が日本全国で公開され、撮影は常呂で行われるなど、町をあげての協力となりました。

⑵ 「アドヴィックス常呂カーリングホール」の紹介

現在国内にカーリング専用施設は11カ所ありますが、数多くのオリンピック選手・トップカーラーを輩出してきた従来の常呂町カーリングホールが、歴史を継承しつつ、平成25年11月１日に、生涯スポーツと競技スポーツとしての施設機能が融合し、人や自然に優しく環境配慮型の「アドヴィックス常呂カーリングホール」として生まれ変わりました。総事業費16億円、国際大会開催規格に準拠し、国内最大の競技場数６シートを備えた専用屋内施設です。

施設の特色としては、①ホールと観覧席をガラスで間仕切ることで、ホール内の空調環境維持や選手が競技に集中できる環境を確保、観客には快適な環境での観戦が可能。②ハウス天井カメラ映像のモニターを設置し、ホール内の集音マイクを通し観客席でも迫力を感じ取れる事ができる。③チェアカーリング競技にも対応した設計で、各階に車イス対応多目的トイレやエレベーター、車イス用観覧席スペースや授乳室を設置するなどユニバーサルデザインへの対応などがあげられます。その他多くの特色ある施設になっています。

⑶ 常呂高校出身のカーリング五輪選手の紹介

冬季オリンピックに出場したカーリング選手には、近江谷好幸（長野）・杏菜（バンクーバー）親子、佐藤浩（長野）、敦賀信人（長野）、三村容子（長野）、加藤章子（長野、ソルトレイク）、船山弓枝（旧姓：林／ソルトレイク、トリノ、ソチ）、小笠原歩（旧姓：小野寺／ソルトレイク、トリノ、ソチ）、小仲美香（ソルトレイク）、本橋麻里（トリノ、バンクーバー）、吉田知那美（ソチ）、小野寺佳歩（ソチ）の12名がいます。

表１　ソチオリンピック出場の日本選手について

氏　名	出　身	所　属	出場回数	ポジション
小笠原　　歩	常呂町	北海道銀行	２大会ぶり３回目	スキップ
船　山　弓　枝	常呂町	北海道銀行	２大会ぶり３回目	サード
小野寺　佳　歩	常呂町	中京大学4年	初代表	セカンド
苫米地　美智子	岩手県二戸市	北海道リース	初代表	リード
吉　田　知那美	常呂町	北海道銀行	初代表	セカンド,リード

（日本：４勝５敗）５位

※常呂町は、現在北見市

※現在小野寺は北海道銀行、吉田はロコ・ソラーレ、苫米地はヒト・コミュニケーションズの所属

3　カーリング競技の説明

⑴　カーリング競技の概要

カーリングは、氷の上で石（ストーン）を滑らせハウスと呼ばれる円の中心に最も近い場所を確保し、チームの得点を数えるウインタースポーツです。

欧米とくにカナダで人気が高く、高度な戦略とテクニックが必要なことから、「氷上のチェス」ともいわれています。

⑵　カーリング競技のルール

○　１チーム４人ずつで対戦します。

○　１つの試合は、８エンドまたは公式の試合では10エンド行われます。

○　各エンドでは「先攻」と「後攻」があり、ゲーム前のドローショットで勝った方が、１エンド目の攻撃を選ぶ権利またはストーンの色を選ぶ権利を得ることができます。通常は攻撃の「後攻」を選び、試合を有利に進めます。

○　２エンド目からは、前のエンドで得点を取ったチームが「先攻」となります。ブランク・エンド（両チームとも得点がない）の場合は、同じチームが次のエンドも「先攻」となります。

○　試合の中では、各チームに攻撃するための持ち時間が73分間あり、１分間のタイムアウトを１度取ることができます。その他に５エンド終了時に７分間の休憩があります。

○　試合が終了するまでに持ち時間がなくなると、そのチームの負けとなります。

＜ショット（投げる）＞

○　各エンドでは、リード・セカンド・サード・スキップ（スキップが最後ではない場合もある）の順に１人２投ずつ、各チームが１投ずつ交互に投げます。

○　スキップは自分が投げるとき以外は、ハウスから投げる位置の指示を出します。スキップが投げる

時はサードがその役割を代わって行います。試合中ハウスに入れるのは、スキップとスキップが投げる時のサードのみです。

○　リードとセカンドは、自分が投げるとき以外はスウィーピングが役割です。

○　右投げの人はセンターライン左側のハックから、左投げの人はセンターライン右側のハックから投げなくてはならない。また、投げる側のホッグラインに達する前にストーンから完全に手を離さなくてはなりません。

○　各エンドで、両チームがすべて(16 投)を投げ終わった時点で、ハウス内のティー（中心)に一番近くにあるストーン(№.1 ストーン)を投げたチームが得点を得る。このとき、ハウス内で№.1 ストーンと相手チームの一番ティーに近いストーンまでの間にあるストーン(№.1 ストーンを含む)の数すべてが得点となります。相手チームは必ず 0 点になります。＜得点方法＞

○　10 エンドまでの得点の合計で勝敗が決まる。10 エンド終了時点で同点の場合は、サドンデスの延長戦に入ります。

○　フリーガードゾーンルールというルールがあり、各チームのリードが 2 投ずつ投げ終わるまで(計４投終了まで)は、相手チームのリードがフリーガードゾーンに投げたストーンをテイクアウトすることができません。ただし、ウィックショット(アウトさせないように当てて動かすこと)は可能です。

○　スキップ(又はバイス・スキップ)のみが、相手チームが投げたストーンをスウィーピングできるが、投げたストーンがティーラインを越えてからというルールがあります。

○　アウトとはプレーから外すことを言い、ストーンがバックラインを越えるか、サイドラインに触れたときのことをいいます。投げられたストーンがホッグラインを越えてない時は、アウトと同じ扱いとなります。

○　競技者または使用している用具(ブラシ)などが、ストーンに触れて動いてしまったストーンの扱いについては、相手のスキップの判断で決まることがあります。とにかく、ストーンに触れてしまうと不利になります。

(3)　カーリングの用具

【ストーン】

カーリングのストーンは花崗岩でできています。直径 30 センチメートル、重さは約 20 キロです。

【ブラシ】

ブラシは動物の毛や化学繊維でできています。最近では、氷の状態に合わせて、ヘッドの部分を取り替えられるものもあります。

【シューズ】

カーリング用のシューズは、片方が滑りやすい素材・スライダーがついており、片方は普通の靴と同じゴム製でできています。投げるとき以外はスライダーの上にカバーをつけ、滑りにくくしています。

右の写真は、用具の変遷を語る昔のストーンやブラシです。こちらは、アドヴィックス常呂カーリングホールに展示されています。

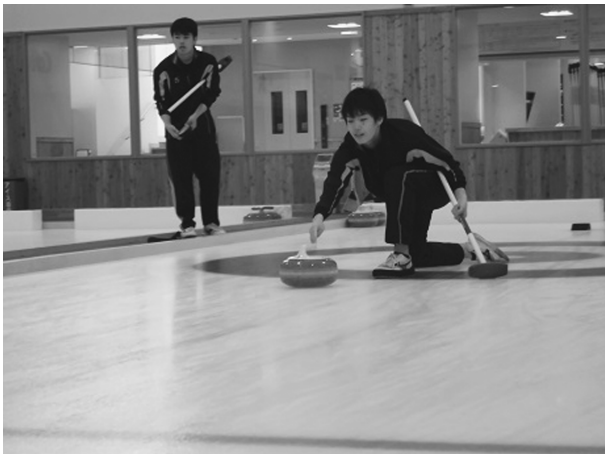
4　常呂高校内での取り組み

(1)　授業でのカーリングを実施している経緯と現状

小学校は平成４年から、中学校は平成９年からそして高校では、平成７年からカーリング授業が始まりました。当時はカーリングを指導できる先生方がおらず、経験者の生徒もほとんどいない状態でしたので、小笠原、船山（当時３年生）さん達が中心になり指導していたようです。しかし年々経験者も増

え、次第に生徒の大半が経験者となり、現在では町出身の生徒は全員経験者としてリーダーシップを発揮し授業でのサポート役として取り組んでおります。

平成25年に通年型のカーリングホールが出来ましたが、授業開始時期は１月下旬からで1，２年生のみの一斉授業で行い、１チーム４～５人編成で毎時間試合を行っており、３月の授業最終週にカーリング大会を開催しています。



＊授業内容の紹介（毎回２時間続きで行っています）

時　　間	内　　容
10:45～10:50	集合、点呼、体調確認
10:50～11:00	学校出発・ホール着
11:00～11:10	体操、諸注意、本時の確認
11:10～11:20	スライダーをつけての滑走練習（班練習）
11:20～12:15	試合（３～４エンド）
12:15～12:25	チームミーティング（評価・反省）＊カーリングノートを使用
12:25～12:30	総括
12:30～12:40	ホール出発・学校着

⑵　常呂高校カーリング後援会組織について

平成20年に「北海道常呂高等学校ＰＴＡカーリング後援会」が発足し、毎年10月に学校にて総会が開催され、各種カーリング大会に参加予定をしている生徒の保護者、協会関係者（カーリング倶楽部)、市職員（常呂総合支所・常呂教育事務所)、本校職員が組織に入り、生徒の活動に対してのバックアップをしています。

具体的なカーリング参加生徒の支援の範囲は、冬季オリンピックの参加資格を得るための大会･遠征･合宿等としています。

5　常呂自治区の高校生のカーリング参加状況

⑴　大会参加状況

毎年12月31日には年越しカーリングを実施するなど、小・中・高の体育の授業でのカーリングは元より、冬季から開催する町民リーグもカーリングの町となった所以と考えられます。現在、常呂高校では３年生２チーム、１年生２チームがカーリング後援会所属チームとして登録しています。

表２は、平成24年度に本校生徒が参加した大会一覧ですが、生徒はそれぞれのチームに所属（カーリング後援会所属）しており、どのチームも町民リーグ（１部～４部）に参加し、冬は11月～３月までの５ヶ月間、夜19時～22時の時間の中で試合を行っています。その間各種地元ローカル大会から全国、

世界大会まで参加しています。（全国大会、世界大会は一部の生徒のみ）

表２　平成 24 年度に常呂高校生徒が参加した大会一覧

日　　程	大　　会　　名　　称	開　催　地
平成24年11月28日～12月2日	第21回日本ジュニアカーリング選手権大会	青　森　市
平成24年12月22～23日	第27回オホーツクブロックカーリング選手権大会	常　呂　町
平成25年１月４～６日	2013北海道新聞社杯北海道カーリング選手権大会	南　富　良　野
平成25年１月31日～２月３日	第32回北海道カーリング選手権大会兼アルバータ杯	札　幌　市
平成25年２月９～10日	第21回オホーツクブロックジュニア選考会	常　呂　町
平成25年２月12～17日	第30回全農日本カーリング選手権大会	札　幌　市
平成25年２月14～17日	第８回全国高等学校カーリング選手権大会	青　森　市
平成25年３月17日～20日	第21回北海道ジュニアカーリング選手権大会	常　呂　町

⑵　北見市やカーリング協会と高校の連携

今後、高校独自のカーリング人材育成に取り組んで行く具体的な計画はありませんが、協会には（常呂カーリング倶楽部）、中学生から登録することができ、毎年、中学生から 70 歳代のお年寄りまで、約 40 チーム 200 人が町民リーグに参加し、このリーグ戦を通して競技力の向上が図られています。また、小学生を対象としたジュニアカーリング教室を毎週２～３日間開催し、次世代を担うカーリング選手の育成に努めており、日本を代表する選手の育成につながっています。

平成 21 年度に活躍したチーム常呂高校（石垣・氏原・井田・吉原・小野寺（決定戦のみ加入））は中学校の時に結成したチームで、2008 年全国高校選手権で初優勝を果たし、2009 年２月の日本選手権で準優勝し 2009 年 11 月バンクーバーオリンピック日本代表決定戦（チーム青森・チーム長野・チーム常呂高校の三つ巴）に出場するなど、選手育成の成果が出た結果だと思われます

将来的には、卒業生が教師となって母校や道内各地でカーリングを指導し、普及、発展させてほしいと思っています。また、常呂町が日本を代表するカーリングの町から世界を代表する町になることを願い、今後も地域と連携しながら発展に努めたいと思います。

※　現在の所属
石垣・札幌国際大学～ヒト・コミュニケーションズ
氏原・札幌国際大学～引退
井田・札幌国際大学～ヒト・コミュニケーションズ
吉原・札幌国際大学～北海道銀行